

私立 津田塾大学

在学生／卒業生を対象としたシームレスな就職支援推進プログラム

取組期間	2009(平成21)年度～2011(平成23)年度
区分	学生支援推進プログラム
所在地	〒187-8755 東京都小平市津田町2-1-1
設置者	学校法人 津田塾大学

取組内容とその成果

プログラムの目的及び内容

全学科・学年で必修となっているセミナー、少人数で行っている語学教育を基礎とした本学独自の教育力で培った自己表現力を持つ学生に、タイムリーな情報を提供する。また、さまざまな分野で活躍する卒業生との交流を奨励することにより、社会参画を支援する。

豊富な情報は在学生に限らず、卒業生にも積極的に提供し、卒業生のキャリアアップ、再就職、転職等にもシームレスに寄与することを目的とする。

到達目標

社会で活躍する卒業生と大学とのネットワークを確立し、在学生がそれらロールモデルと気軽に交流できる体制を整える。同時に、大学が支援する対象は在学生だけではなく、卒業生もその対象であるということを再確認し、様々な分野で本学の教育力に裏付けられた能力を発揮しつつ、息の長い活躍ができる人材の輩出に努める。未曾有の不況にも対応するために、在学生が就職活動を安心して行える環境を整備しつつ、また困難を経験している卒業生に対しても、シームレスに転職・再就職等の情報を適宜提供できる、双方向性のある就職支援推進プログラムを構築する。

プログラムの実施内容

企業や卒業生の助言も反映できる、学長を委員長、研究支援担当学長特別補佐を副委員長とする就職支援推進プログラム委員会を設置し、本委員会が中心となり、学内関係機関の理解と協力を得ながら、事業を実施した。

就職を巡る緊急事態に対応できる体制整備をはじめ、学生のメンタル面の支援のためのカウンセラー

の増員、24時間対応の電話によるトータルヘルスケアサービスの導入など、現状の問題点を解消する取り組みを行った。また、本学同窓会を軸とした卒業生との連携ならびに卒業生への支援、コミュニケーションツールを活用した各種支援対象へのタイムリーかつ適切な情報提供システムの確立、都心で就職活動をする学生及び転職を目指す卒業生の支援拠点としての千駄ヶ谷キャンパスの整備などを行った。

プログラムの成果

1. 当該プログラムの周知方法等

本プログラムの実施体制として、学長を委員長とする就職支援推進プログラム委員会を組織し、委員会を毎月開催した。その決定事項は教授会で教員に、事務局会議で職員に周知した。研究支援担当学長特別補佐が主宰する研究支援会議では、本プログラムをはじめ本学が取り組んでいる補助事業等の代表者が出席し、それぞれの実施進捗状況等を毎月報告し、情報共有を行い、全学的な協力体制が整えられた。

学生に対しては、本学各種 Web サイト、学内掲示、チラシをはじめ、本プログラムとして実施される各種イベントの際にも告知を行った。本学広報誌“Tsuda Today”に定期的にプログラムの成果を掲載し、在学生の父母や卒業生や広く一般にも周知した。

2. 当該プログラムの成果

①自己評価は、どのような観点で行ったか。

自己点検報告書作成にあたり、これまで本補助事業の企画運営を担ってきた就職支援推進プログラム委員会の委員（8名）による自己点検に加え、学外者（1名）、並びに就職支援推進プログラム委員以外の学内者（4名）に点検評価を依頼した。

学外者および委員会以外学内者には、補助事業期間に実施した活動内容を取りまとめた報告書を基に、プログラムが掲げた「到達目標」をどれだけ達成し

たかについて点検・評価を依頼した。

活動内容の報告書には、実施した活動ごとに、次のア～キを記述した。

ア 活動の内容

イ 活動の実施期間

ウ 活動に要した経費（千円単位）

エ（実施した活動が学生向けのイベント等の場合は）その宣伝・告知方法

オ 参加者数、利用者数、登録者数、実施回数など客観的な情報に見る活動の実績

カ 参加者・利用者アンケートや④から読み取れる活動の成果

キ 以上をふまえた次年度以降の計画

同時に、就職支援推進プログラム委員会の委員一人ひとりが同様に自己点検評価を実施し、計13名が同一の点検シートに点検評価結果を記述し、それらに基づき、最終的な自己評価を行った。その結果を事項②にまとめる。

自己点検の際に使用した次の2点の資料は、本報告書資料として添付する。

・『在学生／卒業生を対象としたシームレスな就職支援推進プログラム』（2009(平成21)～2011(平成23)年度)主な実施活動・周辺活動 一覧」(外部者の点検評価用に作成した報告書)

・『在学生／卒業生を対象としたシームレスな就職支援推進プログラム』自己点検評価

シート」および評価者の回答(抜粋)

②到達目標に達したか。

本学が掲げる目標を、大きく次の3つに分けて点検評価を行った。

目標1：様々な分野で本学の教育力に裏付けられた能力を発揮しつつ、息の長い活躍ができる人材の輩出に努める。

目標2：未曾有の不況にも対応すべく、在学生が就職活動を安心して行える環境を整備する。

目標3：困難を経験している卒業生に対しても、シームレスに転職・再就職等の情報を適宜提供する。

目標1は、(1)学内各部署、教員、そして本学同窓会の協力も得つつ、在学生に多様な卒業生と交流する場を設ける企画と、(2)キャリア教育科目の開講を軸に計画・実施した。補助金対象事業というメリットを生かし、通常の予算の中では実施を躊躇しがちな「極めて少人数」を対象に実施し、その効果を確認した。

様々な業界やライフステージで活躍中の卒業生との交流は、学生にとって卒業後の進路を身近に考える非常に良い機会となった。15回開催した「活躍する卒業生との懇談会」は、学生のワークスタディとセミナーを活用し、同窓会との窓口である交流館の支援の下、懇談会の企画・運営及び報告(ニューズレターの発行)・情報発信する体験を通して各種のスキルを身に付けることができた。教員に呼びかけセミナー単位で実施した企画では、1年次の授業時間を利用したケースもあり、低学年から卒業を考える機会作りに繋がった。キャリア教育科目として全学を対象に10科目を開講し、教育課程でのキャリア教育への取り組みを位置付けることができた。

これまで就職支援活動は、専門とする部署(学生生活課)が主に担当してきたが、本プログラムにより、全学的に取り組む体制が整備されて活動が強化されたと確認した。一方で、教育課程におけるキャリア教育内容の一層の充実、全学的な協力体制や同窓会との連携等については継続的な取り組みが必要であると指摘された。

以上により、目標1はその目標を十分に達成したものと判断された。

目標2については、(1)証明書自動発行機の導入や、大学へ届いた求人情報を自宅からでも検索できるシステムの導入など、学生の就職活動を支えるインフラの整備と、(2)「公開模擬面接」など新たな実践的トレーニング企画の実施や、心身の不調に対応するカウンセラーの増強、法的措置が必要となった場合の弁護士との連携など、ソフト面の充実から実施した。証明書自動発行機や就職支援システムの導入、千駄ヶ谷キャンパスにおける都心活動拠点の整備は、学生の就職活動を行う上での時間と場所の制約を大幅に改善し、利用件数実績からその利便性向上が確認された。

就職活動を終えた4年生の経験から発案され実施した企画(「公開模擬面接」「就活を終えた4年生との懇談会」「活躍する卒業生との懇談会」)は、実践的な内容で参加者の就職活動への不安解消に繋がり、満足度が高いことがアンケートで確認された。

カウンセリングは、授業期間の対応時間の増加、長期休暇期間もスタッフを配置し、24時間対応の電話相談サービスも新たに導入した。内定取消など法的対応が必要な場合、顧問弁護士に依頼できる体制を整え、就活を進める学生が遭遇しうる不測の事態に備えたバックアップ体制が完成した。

今後の課題として、教員の一層の協力や千駄ヶ谷キャンパスの立地を生かした活用、情報通信技術等の進化に対応したインフラの充実等が望まれた。

以上により、目標2は必要十分な点には到達したものと自己評価する。

目標3：困難を経験している卒業生に対しても、シームレスに転職・再就職等の情報を適宜提供する。

ここでの「卒業生」は、卒業後間もない者を想定している。卒業してしまうと、大学が遠い存在になり、既卒求人として大学に届く貴重な情報も提供の機会を逃しがちであった。今回の取組では改善のため、卒業生のための就職情報提供を目的としたメーリングリストを作成し、卒業直前に一斉加入を推奨し、卒業生に対しても在学生と同様に求人情報を提供する体制を構築した。配信する情報の充実を図るために、同窓会を通して同窓生に協力を呼びかけた。同窓会本部及び支部との情報交換を定期的に実施し、卒業生のニーズを的確に把握し、かつ就職支援に関わる協力体制が整った。同窓生への情報提供をシステムティックにするため、共同で業種ごとの卒業生情報のデータベース化を開始した。

卒業生、特に若年層への就職支援体制は本取組期間中に整備されたが、継続的に卒業生への情報提供等の体制を整えることは課題となっている。個人情報保護のため成果等の追跡調査ができず、成果が明確に把握できなかった部分があり、今後の検討課題とされた。

目標3は、目標に到達したと自己評価する。しかし、ここに留まらず、特にソフト面において安定的に充実させる体制の完成を目標到達点と考えたい。

③具体的な成果は何か。

本プログラムでは具体的な成果としては、次の通りである。

- (1) 全学的な就職支援への取組体制の構築
- (2) 就職活動を支援する環境とセーフティネット・緊急時対応体制の整備
- (3) 在学生・卒業生・大学を結ぶネットワークの再構築と強化
- (4) 本学の特長を生かしたプログラムの実施による、学生の就業力の向上

本プログラムにより、教員・職員・同窓会・卒業生という、大学組織全体が関わる体制を構築できたことは非常に大きな成果である。キャリア教育科目の教育課程の中にキャリア教育の位置づけ、セミナー単位での卒業生を囲む懇談会の実施等から、教育・

研究と将来像（ロールモデル）のマッチングを学生に実感させることができた。

補助事業の採択により、証明書自動発行機や求人情報提供システム等の導入、都心の就職活動拠点として千駄ヶ谷キャンパスを情報インフラ中心にスピーディに整備し、学生の利便性を格段に向上させ、就職活動を支援することができた。心身の不調に対応するカウンセラーの増強、法的措置が必要となった場合の弁護士との連携等によるセーフティネット・緊急時の対応体制を整え、物心の両面から学生を支えることができるようになった。

本学の特長である「少人数」に留意して取り組んだ諸活動の多くは、この特長を就職支援にも効果的に活かすことができることを多数検証できたことも成果の一つであり、実施したプログラムの多くは、短期的に効果の見える就職活動のハウツーではなく、新たな気づきを誘発し、キャリアプランニングに繋がることも成果と考えている。

この取組を通して、組織のネットワーク、そして人的なネットワークが構築された。特に同窓会とは情報交換を通じて連携を図り、共同で取り組むこととなった職種別データベース構築をはじめ、相互に就職活動を支援していく関係を強化していきたい。

今後の計画

1. 当該プログラムの成果をどのように活用していくか。

本プログラムの実施により得られた成果を定着・発展させるため、次のように活用する。

①全学的な就職支援体制の継続

就職支援プログラム委員会を実施母体として、取組期間に達成した大学組織全体および同窓会に協力を得たキャリア支援体制を継続し、教員にも呼び掛け、本学の特長である「少人数」をより活かした就職支援を行う。早期にロールモデルと接触するメリットを学生・教員に浸透させ、教育課程を見直し、キャリア教育科目や正課内のキャリアの位置付けを再確認する。学生がプログラムに参加しやすい環境を整え、多くの人数に機会を提供する工夫をする。

②就職支援環境整備の継続

証明書自動発行機や就職情報システム、都心の就職活動拠点の整備というハード面の成果を活かし、就職情報システムのデータベースの充実や、都心キャンパスを会場にした支援プログラムの実施等、ソフ

ト面での充実を図っていく。千駄ヶ谷キャンパスに位置する同窓会との連携を強化させ、就職拠点の双方での活用等、卒業生への支援体制も順次整えたい。

③ネットワークの発展的構築と強化

本プログラムにより、在学生・卒業生・大学を繋ぐネットワークが再構築された。ロールモデルである卒業生との接点が増え、在学生は就職活動のノウハウばかりではなく、ライフコースを見据えたキャリアプランニングを考え進めていく機会に恵まれた。今後も就業力の向上のために、このネットワークを活用し、効果が確認された小規模大学に特性を活かせる企画を学生の要望に応えながら実施する。

2. 今後の計画

これまでのプログラムは、内容を精査しながら継続して実施する。2012(平成24)年度はキャリア教育科目の開講、活躍する卒業生を囲む懇談会、カウンセリングの継続等を行い、学内のプロジェクト等との共同企画等を計画している。今後はデータベース等のソフト面の充実を主眼に、社会の動向も踏まえ、就職活動のカギとなる情報インフラの整備に取り組む。

成果の確認等、個人情報保護の制約が障害となっている活動にも、粘り強く取り組む。

将来的には、他大学や就職支援業者等との情報交換や共同企画なども検討していきたい。

就職未内定者への支援策

2011(平成23)年11月から採用活動継続企業の開拓と企業への相談業務のため、本補助事業経費で1人採用した。合同企業説明会への参加、企業への問い合わせ、多様な就職関連サイト等を活用し、4年生向けの求人収集、獲得した求人の中から、特に薦めたい求人情報を速報として週2~3回、未内定者にメール配信した。求人情報に地域や資格等制限のある場合は、登録カードを元に個別に電話等で連絡している。内定報告のない学生には約1ヶ月ごとに電話をかけ、状況を確認し、求人情報の提供や相談を行っている。1月以降は2週間に1度程度、連絡を行う。2009(平成21)年度から、就職先未定のまま卒業する者には、卒業時にメールアドレスを登録させ、大学に来る既卒者向け求人情報の提供を行っている。

資 料

「在学生/卒業生を対象としたシームレスな就職支援推進プログラム」(2009~2011年度)

主な実施活動・周辺活動 一覧

本プログラムの活動案を立てるに当たり、2009年11月、就活を終えた学生20名に「就活をするうえで『あったらいいな』と思ったこと」を自由に記述してもらった。その結果は、概ね以下のとおりであった。

- ・さまざまな業界・業種のOGとの接触機会(少人数での懇談会やデータベースなど)がもっとあったら良かった。
- ・就活体験を終えた内定者との接触機会がもっとあると良かった。
- ・面接対策の機会がもっとあると良かった。
- ・大学まで来ないと情報が収集できない、情報入手には事前の予約が必要など、現状は利便性に欠けているので、家からでもアクセスできるサービスやメール配信されるサービスがあったら時間的にも経済的にも助かった。
- ・上級生に限定せず、低学年の頃から就活が身近に感じられるような企画がもっとあったら良かった。

・ほか

これら学生からの声を参考に、以下の活動を計画・実施した。

①同窓会訪問・情報交換会の開催

- ・実施年度： 2009、2010、2011
- ・所用経費： 約82千円

在学生・同窓生との連携体制の構築、卒業生(特に未曾有の就職難を経験した直近の卒業生)への就職支援のあり方を模索するために、同窓会本部ならびに支部との直接的な情報交換の機会を計画した。

[訪問実績]

2010/1/30	同窓会本部	2010/7/10-11	京滋支部★	2011/6/25	湘南支部★
2010/5/23	同窓会本部	2010/10/17	茨城支部	2011/8/21	ロンドン支部
					★
2010/6/19-20	山口支部	2010/11/28	仙台支部★	2011/10/9	同窓会本部☆
					☆ 本学にて打ち合わせ

★ 経費は本プログラムより支出していない訪問

[活動の成果]

- ・国内外に広がる同窓会支部のネットワークを活用して、卒業生一特に卒業してまだ日の浅い卒業生への就職・転職支援体制の構築を試みたが、支部との直接的な体制構築よりも、本部を介した包括的な体制構築の方が効果的だということが分かった。
- ・一方で、大学生の就職が困難である現状を同窓生

に理解してもらう良い機会とはなかった。在学生の就職活動の一翼を担いたいという支部としての申し出（山口支部、湘南支部）や、個人からの申し出（高瀬裕子氏、岡島弘恵氏）を受けるに至った。

[来年度以降の計画]

引き続き、継続的に同窓生への情報提供は行う。新たな活動として、同窓生の職種別データベースの構築を同窓会と大学が連携して実施・共有することとなった。このデータベースは、同窓生同士の活用はもちろん、在学生にも活用する。本活動の成功の鍵は、卒業生一人ひとりの協力による部分が大いいため、卒業生に対しては同窓会総会や同窓会会報にて、また今春卒業する学生には一同に会する卒業式予行の場で直接協力を要請した。

★現在作業進行中の業界：公認会計士、弁護士、医師、大学教員、小学校教員、ジャーナリスト、保育士、看護師

②就職活動支援のためのイベント開催

(1) 就職活動を終えた4年生とこれから就職活動を始める3年生との懇談会

- ・実施年度： 2009、2010
- ・所用経費： 0円（学生ボランティアで実施）
- ・告知方法： 学内掲示・チラシ、学内電子掲示板、学内ポータルサイト

就活をはじめめる3年生が内定者と懇談できる企画を開催。少人数で1時間懇談できること、1日に複数の業種の内定者と懇談できることで、既存の企画との差別化を図った。

[実績]

年度	開催日時	業 界	参加者数
2009	2010/2/2 13:00-14:00/14:10/15:10	海運／製業	15
	2010/2/3 13:00-14:00/14:10/15:10	生保／非営利	14
	2010/3/15 13:00-14:00/14:10/15:10	専門サービス／法律事務所	10
2010	2011/2/8 13:00-14:00/14:15/15:15	化粧品／人材派遣	1
	2011/2/9 13:00-14:00/14:15/15:15	電気機器／銀行	1
	2011/2/10 13:00-14:00/14:15/15:15	旅行／シンクタンク	中止

[活動の成果]

学生アンケートを参照(資料1) ※2011年に行った3回分についてはアンケートなし

[来年度以降の計画]

(2)の「公開模擬面接」に活動をシフトすることとし、2010年度をもって終了した。

(2)企業の採用経験者を講師にした、就活生のための公開模擬面接

- ・実施年度： 2010、2011
- ・所用経費： 約111千円
- ・告知方法： 学内掲示・チラシ、学内電子掲示板、

学内ポータルサイト

ライティングセンターの教員が、事前に選考したマスコミ志望の3年生4名を順番に面接。そのやり取りを講師がチェックし、コメントするという形式で実施。このやり取りは、同じく就職活動を控えた学生が観覧している前で行われた。

[実績]

年度	開催日時	講 師	被面接者数	総参加者数
2010	2011/2/1 13:00-15:00	毎日放送東京支社総務部部長	4	52
		朝日新聞東京本社文化グループ記者		
		NHK エンタープライズプロデューサー		
2011	2012/1/27 13:00-15:00	NHKさいたま放送局長	4	89
		朝日新聞大学連携事務局長		
		大広クリエイティブディレクター		

[活動の成果]

実際に面接官も経験している社会人から、就職活動への心構えやエントリーシートの考え方など、さまざまなアドバイスを聞くことができ、マスコミ志望でない学生たちにも役立つ、実践的な内容となった。また、2010年度に実施した際の被面接者のうち2名は朝日新聞、共同通信社、NHKより内定を得ており、確実な結果につながっている。

■アンケート集計結果抜粋（オリジナルの集計結果は資料2）

Q.今回の企画は約に立ったか？

年 度	とても役に立った	役に立った	あまり役に立たない	役に立たない
2010年度	39	11	0	1
2011年度	56	22	1	4

[来年度以降の計画]

2012年度も継続して実施する。

活躍する卒業生との懇談会

- ・実施年度： 2010、2011
- ・所用経費： 約443千円
- ・告知方法： 学内掲示・チラシ、学内電子掲示板、学内ポータルサイト、専用広報紙『Career Café』

さまざまな業界・業種の卒業生と接触できる機会を設けることを目的とし、少人数にこだわった懇談会を実施した。講師依頼までは事務が担当し、それ以降の各種運営（事前打ち合わせ、当日の司会進行、報告書の作成）は、公募したワークスタディーの学生スタッフが津田梅子記念交流館事務室長の指導のもとで担当した。

[実績]

開催日	会社名等 / 主な業務内容	参加者数
2010/6/16	富士通 / 海外からの部品調達	6
2010/7/14	社会人向けビジネススクール / キャリア相談	8
2010/10/20	総務省 / 人事・恩給局勤務	13
2010/11/17	東北新社 / 字幕/吹替	10
2010/12/8	玉川学園高等部 / 教員	2
2011/6/22	フリー / ビジネススクール研修講師	28
2011/7/13	筑波大学 / 研究職	7
2011/11/2	中日新聞 / 記者	11
2011/12/7	NEC / 広報	8

[活動の成果]

上表のとおり、各回、少人数による懇談会を維持でき、参加者アンケートからも学生が望む企画であったことが確認できた。(アンケート結果:資料3、報告書:資料4、学生作成の学内広報紙『Career Café』資料5)

[来年度以降の計画]

2012年度(平成24)も継続して実施する。

(3) 活躍する卒業生との懇談会(ゼミバージョン)

・実施年度: 2011

・所用経費: 約143千円

告知方法: セミナー担当者へ教授会および書面での通知(資料6)

「(3) 活躍する卒業生との懇談会」が好評であったことを受け、同様の企画をゼミ単位で行う企画を実施した。オリジナル企画の更なる活性化と、就職支援推進プログラム委員会だけでは把握しきれていない卒業生の発掘を目指した。実施については、各ゼミナー担当者に資料6のとおり告知を行った。

[実績]

開催日	会社名等 / 主な業務内容	セミナー名	参加者数
2011/7/19	早稲田大学非常勤講師 / 日本語教師	井川壽子4年セミナー他	19
2011/7/21	フリー / ビジネススクール研修講師	大島美穂4年セミナー他	17
2011/10/14	エムアンドシー / SE ジェイアール東日本システムズ / SE	見上英里勉強会メンバー他	23
2011/10/27	江戸川女子中学・高校 / 教員	田近裕子基礎セミナー	21
2011/12/1	太田東高校 / 教員	田近裕子基礎セミナー	17
2011/12/16	日本アイビーエム / 人事 新生銀行 / SE	見上英里勉強会メンバー他	14

※参加者数に教員は除く

[活動の成果]

上表のとおり短期間に6件の申請があったことから、現場で学生と接する教員のニーズにも合致した企画であったと分析できる。また、通常版の「活躍する卒業生との懇談会」と異なり、自らの意思でOGの話を聞きにきた訳ではないため、学生の新たな気づきへとつなげることができた。(報告書およびアンケート 資料7)

[来年度以降の計画]

学生、教員ともに好評の企画であったため、2012年度も継続して実施する。

(4) 朝日新聞見学ツアー(ライティングセンター企画)

・実施年度: 2011

・所用経費: 0円(ライティングセンター企画のため、本プログラムからの支出はゼロ)

・告知方法: ライティングセンターWebサイト、学内掲示・チラシ

朝日新聞社で年に4回開催される「朝日新聞社土

曜日見学会」へ参加した。

※この企画は、本プログラムの経費を用いて実施した事業ではないが、就職支援の活動の一環であり、また本プログラム運営委員会のメンバーが実施した事業である。

[実績] (参加者数)

第1回	2011/6/4	9
第2回	2011/7/9	5
第3回	2011/11/5	8

[活動の成果]

この見学会をきっかけに、ライティングセンターの大原を軸とした、学生による自主的なマスコミ勉強会が開催されるようになり、放送局や出版社への就職につなげた学生もいた。

③manabafolioの導入

・実施年度: 2011

・所用経費: 約800千円

利用者を津田塾生に限定したクラウド型教育支援システム(manabafolio(株式会社朝日ネット製品))を導入し、時間や場所を選ばない学習・情報交換の場を提供した(詳細は資料8参照)。学内では「マイ・ライティング・ポッド」の名称で利用。

[登録者数(2012.3.15現在)]

	1年	2年	3年	4年	合計
英文	24	20	36	46	126
国際	13	88	66	42	209
数学	0	0	0	0	0
情報	0	7	5	14	26
学部合計	37	115	107	102	361
大学院					16
総計					377

登録者数に教職員は除く

[活動の成果(活用方法の一例)]

2011年11月に全3回、日本語ライティング講座(単位にならない、課外の連続講座。ライティングセンター主催)「コピーライターの仕事」を開催し、大広のコピーライター、花岡邦彦氏が講義とワークショップ形式で広告の仕事や、発想の磨き方などを教えた。受講した学生は20名。

講座終了後「花組」と銘打ったコミュニティをマイ・ライティング・ポッド内に立ち上げ(メンバーは学生20名、花岡氏、ライティングセンター大原)、ウェブ上で、学生が講座中に聞けなかった質問をしたり、花岡氏が広告業界の話や就職活動のアドバイスなどを行ったりした。11月から2012年3月13

日現在まで、約 120 件の投稿があった。

学生にとっては、第一線で活躍する企業人と常に「つながる」ことができ、不安や悩みにこたえてもらえる、貴重な機会になった。

2012年3月1日には「花会」も開催。就職活動中の3年生ら5人と花岡氏、ライティングセンター大原とで懇談する会も開いた。

[開設されているコースやコミュニティ（抜粋）]

- ・1年セミナー
- ・国際政治論
- ・マスコミ勉強会
- ・活躍する卒業生との懇談会 など

[来年度以降の計画]

2012年度も継続して利用する。

④企業訪問・インターンシップ先の拡充

実施年度： 2009、2010、2011

所用経費： 約 150 千円

企業訪問をこれまで以上に活発に実施し、企業との連携を強め、同時にインターンシップ先の拡充を目指した。過去3年間で複数名の採用実績のある企業を訪問した。

[実績]

■訪問実績（各訪問時の報告書 資料9）

2010/3/9	ダイキン工業（大阪）、パナソニック（大阪）
2010/11/5	三菱重工業（横浜）、日本銀行（府中）
2010/11/8	磐田信用金庫（磐田）、愛知銀行（名古屋）

■インターンシップ実績

	大学を通して募集した団体数	インターン実施学生数
2009年度	21	32
2010年度	16	26
2011年度	16	47

[活動の成果]

時間的な制約により企業訪問は少数に留まっていたが、普段は接触の機会を持つことが難しい関西方面の企業と接触をもつことができた。

[来年度以降の計画]

就職支援を担当する学生生活課の通常業務の一部として、訪問およびインターンシップ先の拡充は継続する。また、現在実施しているインターンシップ説明会・報告会を内容をより充実したものとして、低学年から就職を意識させるよう努める。

⑤キャリア教育科目の開講

・実施年度：（2009、2010、）2011

※ 2009、2010も科目そのものは開講、2011よりキャリア教育科目となる。

・所用経費： 約5,182千円

正規の課程内に、キャリア教育を目的とした「キャリア教育科目」を開講。そのうちの一部を、本プロ

グラムの事業として開講した。

[実績]

★の3科目を、本プログラム科目として開講

科目名	単位	履修人数	備考
情報と職業	2	38	
日本語ライティングA・B・C・D・E・F	2	119	A20、B20、C20、D20、E19、F20
キャリアのための技術英語★	2	44	各期開講 前期20、後期24
テクノロジーコンピテンシー★	2	12	
創造的学習活動のためのテクノロジー★	2	5	

[活動の成果]

★を付した科目の担当者報告書を参照（資料10）。これらの科目群は少人数で開講されたものであり、学生の満足度はきわめて高かった。

[来年度以降の計画]

本プログラム科目として、2012年度も「テクノロジーコンピテンシー」と「創造的学習活動のためのテクノロジー」を継続して開講する。（「情報と職業」「日本語ライティングA・B・C・D・E・F」も本プログラム外で継続して開講）

⑥キャリアカウンセラーの雇用

・実施年度： 2010、2011

・所用経費： 約1,237千円

卒業を間近に控えた4年生で、就職先が未決定の学生向けの求人を集集・配信する専門スタッフを、その時期（12月～2月）のみ採用し、活用した。（政府の「経済対策」にもとづく実施）

[実績]

年度	情報配信回数	配信求人数	備考
2010年度	15	69	
2011年度	44	105	直接接企業数 10社

■1月～3月の就職決定者数

年度	決定者数	備考
2009年度	25	参考
2010年度	26	
2011年度	19	2012/3/15現在

[活動の成果]

この時期は、次年度（3年生向け）の就職支援準備に入るため、卒業を間近に控えた学生向けの求人情報収集は手薄となる。これだけの情報を収集・配信できたことは成果だと思われるが、新規に獲得した求人情報に対して学生がどのようなアクションを起こしたかは、プライバシーの観点から実施しなかった。

[来年度以降の計画]

政府の「経済対策」を受けて行った事業であったことを受け、現状のマンパワー内で同様の事業実施を調整することとし、2012年度は追加の雇用は行わない。

⑦健康相談、メンタルカウンセリングの充実

- ・実施年度： 2009、2010、2011
- ・所用経費： 約3,527千円

厳しい雇用状況のもと、長期化する就職活動を行わずを得ない学生のメンタル面の支援を強化した。具体的には、(1) 学内のカウンセラーの配置時間の延長、(2) 外部業者による24時間対応のトータルヘルスケアサービスを導入した。

[実績]

- 2011年度 カウンセラーの対応学生数(延べ人数) 97名
- 外部業者に委託したサービス(トータルヘルスケアサービス)の利用者数

	健康相談(電話)	メンタル相談(電話)
2009年度	0	0
2010年度	21	4
2011年度	22	11

[活動の成果]

利用者数については上述のとおり。各サービスに対する学生の反応を客観的に分析する資料は、プライバシーの観点から入手することはしなかった。

[来年度以降の計画]

学内のカウンセラーによる対面カウンセリングは2012年度も同様の時間数配置するが、効果が確認されたことをうけ、大学の経常的な事業に組み込まれることとなった。外部業者への委託サービスは解約する。

⑧証明書自動発行機の導入

- ・実施年度： 2009、2010、2011
- ・所用経費： 約10,168千円

学生の就職活動の機動性を損なわないよう、各種証明書が即時に発行できる証明書自動発行機を導入した。

[実績]

2011年4月～12月 卒業(修了)見込証明書
発行件数合計 1,017枚

2011年4月～12月 成績証明書 発行件数合計 3,076枚

※和文・英文合計数

※成績・卒業(修了)見込証明書は成績証明書に含めた

[活動の成果]

これまで申し込みの翌営業日に発行であった卒業見込証明書と成績証明書が即日発行できるようになり、学生への利便性に資するものであったことが、利用件数から伺える。

[来年度以降の計画]

効果の高さが確認できたため、大学の経常的な事業に組み込まれることとなった。

⑨千駄ヶ谷キャンパスでの就職支援体制強化

- ・実施年度： 2009、2010、2011
- ・所用経費： 約1,126千円

千駄ヶ谷キャンパスと小平キャンパスとのネットワークを強化し、都心でも小平キャンパスと同等の就職支援を受けられるよう、情報面のインフラを中心に整備を進めた。

[実績]

■千駄ヶ谷キャンパスを就職活動に利用した学部学生数

年度	期間	人数
2010年度	2010年5月～2011年3月	65
2011年度	2011年4月～2012年3月	95
合計		160

※ 2009年度は受け入れのための準備期間

■実施した活動

就職活動に学生が自由に使用できる専用PCの導入

[活動の成果]

予算的な都合により、千駄ヶ谷キャンパスに対する本プログラムからの投資は主に専用PCの導入となった。学生が専用PCを利用して、企業説明会の合間に情報収集等をできるように空き教室等を活用できるようにした。

[来年度以降の計画]

現状の利用方法は継続するが、それとは別に、千駄ヶ谷という立地条件や、ホール・会議室を有しているという設備的特徴を生かし、同窓生と在学生、あるいは同窓生同士の情報交換会や勉強会を開催し、新たなネットワーク作りの場としてさらに活用していく。

⑩就職支援システムの導入

- ・実施年度： 2009、2010、2011 (2009、2010年度はデータ登録とシステム検証に充当)
- ・所用経費： 約1,126千円

これまでは、大学まで来ないと大学にどのような求人情報が届いているか分からなかったが、それらを自宅PCからでも検索できるシステムを導入した。これにより、いつでもどこからでも求人情報にアクセスできる環境を整えた。同システムには情報配信機能があるため、希望にマッチした求人情報のメール配信や、大学主催の就職支援イベントのメール配信も開始した。2011年3月利用開始。

[実績]

年度	期間	アクセスログ数
2010年度	2011年3月	2,269
2011年度	2011年4月～2012年3月	10,728

[活動の成果]

システムの構築に時間はかかったものの、アクセス数は上表のとおり大いに活用されていることが分かった。

[来年度以降の計画]

本システムを通して求人情報にアクセスする学生が十分に多いことから、本システムを継続し、大学の経常的な事業の一部に組み込まれることになった。

⑪就職先未決定者への支援

- ・実施年度： 2009、2010、2011
- ・所用経費： 0円

就職先が決まらないまま卒業する学生に対し、希望者に対しては卒業後もメールにて求人情報を発信した。

[実績]

	2009年度卒業 者	2010年度卒業 者	2011年度卒業 者
メーリングリスト登録者数	27人	17人	14人
情報発信回数	40件	3件	—
卒業生からの相談件数	—	7件	3件

[来年度以降の計画]

2012年度も継続して実施する。

⑫就職支援に関連する事業活動

■OGトーク

本学卒業生、本学教職員、本学在校生が登録可能なメーリングリストで、本プログラム委員会のメンバーである津田梅子記念交流館が運営・管理を担っている。各種情報交換・共有の場となっており、求人情報等も少なくない件数寄せられている。現在の登録者数は680人である。

■津田塾大学オープンスクール

津田塾大学オープンスクールとは、千駄ヶ谷キャンパスにて開講される児童・生徒・大学生・社会人といった幅広い年齢の方を対象とした英語講座などのことで、津田塾大学の長年にわたる研究・実践の成果を生かしたプログラム内容となっている。本学学生や卒業生には割引制度もある。

■TOEIC講座

津田梅子記念交流館が企画・実施する就職活動支援企画の一つ。受講者数は2009年度18人、2010年度25人、2011年度30人と、毎年増加している。

■ライティングセンター講演会

「書くということと私」連続講演会を年に数回開催。書くことを職業とするさまざまなジャンルの職業人（研究者、作家、詩人、ジャーナリスト、翻訳

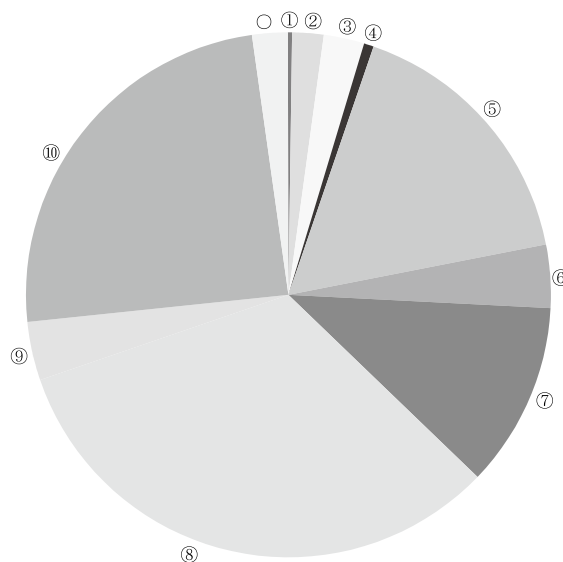
家、コピーライター等）を講師に招き、「書く」ことをめぐっての苦労や喜び、職業観や人生について語ってもらうことで、学生のキャリア世界への視野を広め、キャリア選択とその意識を深める機会としている。2011年度は2回開催し、併せて100人が来場した。

●参考：本プログラム運営委員会構成メンバー

学長（委員長）、学長特別補佐、学生生活課長、千駄ヶ谷キャンパス統括課長、交流館事務室長、研究支援室長、ライティングセンター特任教授（2011年度より）、キャリアアドバイザー（2011年度より、キャリア教育科目担当者）

●参考：経費比率3年分の総経費

（2011(平成23)年度分は見込み） 31,120,031円



- ①同窓会訪問・情報交換会の開催
- ②就職活動支援のためのイベント開催
- ③manabafolioの導入
- ④企業訪問・インターンシップ先の拡充
- ⑤キャリア関連科目の開講
- ⑥キャリアカウンセラーの雇用
- ⑦健康相談、メンタルカウンセリングの充実
- ⑧証明書自動発行機の導入
- ⑨千駄ヶ谷キャンパスの拠点化
- ⑩就職支援システムの導入
- ⑪その他

評価結果

評定：S

評定理由（総論）

本プログラムの進捗過程での情報共有が、十全に図られている。また、本プログラムの成果についての自己評価が、本プログラム遂行グループと学外者を含む当該グループ以外のものとの2段階構成でなされており、将来の発展を見据えた自己検証体制が万全であった。

全学的な就職支援への取組体制を構築するとともに、そこに、同窓会組織とも連携して、情報提供や収集のための協力体制を整えたことも、特に優れている点として指摘できる。

キャリアカウンセラーが雇用されたり、外部業者による24時間対応のトータルヘルスケアサービスが導入されたりするなど、学生の事情に応じたメンタル面の支援の強化がなされた点に特色がある。

加えて、卒業生に対する再就職・転職支援、在学生と卒業生との相互交流が重視されている点にも本プログラムの特徴がある。

加えて、卒業生に対する再就職・転職支援、在学生と卒業生との相互交流が重視されている点にも本プログラムの特徴がある。

実地視察報告

視察日：2012(平成24)年10月22日(月)



総評

全学的な就職支援への取組体制は盤石である。そして年毎に、支援体制・方法・成果の検証を行い、改善・改良を重ねる中でその継続実施が指向されている。その顕著な特徴を次に述べる。

第1は、当学の就職支援活動は、学長を軸とする執行部のリーダーシップの下、学生のニーズに耳を傾けながら、教職協働の営為として効果的に展開されている点にある。

第2は、当学と同窓会が組織的に連携し、在学生の就職支援を、人的交流、イベント開催等を通じ、学生の主体性に十分配慮し系統的に実施している点に見られる。

第3は、上記に関連し、就職支援の対象範囲を卒業生にまで拡大して、卒業生の希望に沿った再就職（転職を含む）を成就させるための条件整備がなされている点にある。具体的には、当学の学位課程とは

異なる分野の人材も含めた高度職業人等に係る職種別データベースを作り、卒業生各人の希望に沿うよう、所要の情報やアドバイスの提供を行っているのがその一例である。

第4は、学外者及び就職支援推進プログラムに直接関与していない学内者を含む人々を加え、就職支援の「当初目標」とその成果に係る内部検証体制が確立され、そこでPDCAの循環サイクルが効果的に機能しているという点にある。

以上、本プログラムの特徴的な点を述べたが、これら以外にも、キャリア教育科目の充実、インターンシップ先の拡充、「日本語ライティング講座の開催」、公開模擬面接など、学生の教育ニーズに配慮した多様な就職支援のための教育的営為が実施されている。

個別事項

社会の多様な分野で活躍する層の厚い「卒業生」

を人的資源として活用し、大学と同窓会が一体となって就職支援を行い、大きな成果を挙げ得ていることは、歴史と伝統を誇る我が国を代表する女子大学としての強み以外の何物でもない。しかも当学が、単に卒業生の「人脈」に頼るのではなく、同窓会組織との組織的かつ強固な連携の下で、同窓会訪問や懇談会等を行っている点、在學生や卒業生が「就きたい職業」に実際に就業できるための条件整備を行っている点、などは特筆に値する。

また、在學生が卒業生と触れ合う中で、卒業生と同種の職業に就くために必要な知識やコンピテンシーを理解し、そのための「学び」の中身や質を再認識し、より高次元での人間的成長の機会を得ることができるという点にも、当学の取り組みの有為性が認められる。その一例として挙げられるのが、当学が数次に亘って実施してきた「活躍する卒業生の懇談会」である。この懇談会に招かれる講師の多くは、社会の多方面でリーダーとして活躍するフレッシュな若者たちである。在學生は彼らの話を聞き、質疑を行う中で、自分たちが涵養すべき知識やコンピテンシーを自覚する。そして、その自覚は、より高質の「学び」へと昇華する契機となっている。

さらに注目すべきは、上記「懇談会」の企画者が学生自身であり、同窓会の輪を通じて、彼らが最も注目する人材を招請し、参加学生共々、主体的にキャリア形成の道を切り開こうとしている点にある。「受け身」の立場からキャリア形成を大学に依存するのではなく、学生自身が率先してキャリア形成活動を行い、それを大学が側面から支援するという津田塾大学の営みは、各大学のキャリア形成支援活動に対し、新たな視点を提供するものであることを信じて疑わない。